

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 9/1 第16号 文責 林

学校教育目標 「自らの未来を切り拓く、心豊かな生徒を育成する」

教育実習

8月28日（月）から教育実習が始まりました。今年は、1人が来られています。教科は家庭科、クラスは1年2組を担当していただきます。8月28日（月）の朝学活時に放送で全校生徒にあいさつをしてもらいました。元気な声で、先生のやる気を感じました。生徒の皆さんも気軽に声をかけたり、話をしてください。期間は、9月15日（金）までの3週間です。ちなみに9月15日（金）は、体育大会です。充実した実習になることを願っています。

夏季総合選手権の結果

夏季総合選手権大会の最後を飾るワンダーフォーゲル部の踏査競技が8月26日（土）に行われました。結果は、次の通りです。

- ・ワンダーフォーゲル部 踏査競技

団体の部 男女とも第2位

男子個人の部 優勝 Oくん・Kくん ペア

第6位 Mくん・Nくん・Kくん チーム

女子個人の部 優勝 Mさん・Yさん ペア

※日頃の練習の成果をしっかりと発揮して、すばらしい成績を収めてくれました。大きな拍手を送ります。

時間を大切に

暑い毎日が続いてきましたが、朝夕がいくぶん涼しくなり、秋の訪れを感じます。気がつけば、今年度が始まり、5ヶ月が過ぎようとしています。時の流れの速さを感じます。私が子どもの頃は、もっとゆっくり時が流れていたように思い出されますが、年齢を重ねるごとに時の流れが速くなっているように思います。

先日の新聞に中国文学者の井波律子さんの隨筆が掲載されていました。その中で、古い中国の物語である「爛柯説話（らんかせつわ）」が紹介されていました。内容は次のようなものです。ある樵（きこり）が山に木を伐りに出かけたのですが、途中で道に迷います。道に迷った山中の洞窟で囲碁を楽しむ2人の童子（実は仙人）に出会います。樵は、手に持っていた斧を地面において囲碁を見物しますが、やがて我にかえり、地面に置いた斧の柄がすっかり朽ちて使い物にならないことに気づきます。樵は、何とか山を下りて村に帰ったのですが、知らない顔ばかりであせってしまいます。実は、山中の洞窟にいた短い間に、下界（村）では長い歳月が経過していたのです。一瞬が人間世界の何十年にあたるという、ゆるやかに時間が流れる仙人の世界に迷い込んだのです。ですから樵があせってしまうのも無理がありません。

井波さんの隨筆を読んで、時間の使い方について考えさせられました。時の流れの速さを痛感するくらいの時間は、慌ただしく過ぎ去っていきます。慌ただしく過ぎ去っていく時間を無駄に使ってはいかないかを改めて考えさせられたのです。みんなに平等に与えられている時間です。もう一度、時間の使い方を見直して、時間を大切にしたいものです。